日刊 動労千葉

86. 10. 10

No. 2376

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

国鉄「分割・民営化」阻止！三里塚二期着工粉砕！

安全性 求めた団体交渉さえ 突っぱねる当局

運転保安無視の次には大事故が…

「11月ダイ改」事前作業強行 人命よりも「差別・選別」「組合つぶし」「金儲け」

業務移管・広域配転による未熟運転の横行

国鉄当局は、人命よりも金儲けとばかりに安全性ー運転保安を無視・破壊する『施策』を「六一・一一ダイ改」へむけて次ぎつぎと推進している。国鉄労働者と利用者を全く無視した横暴極まりない当局のやり方を怒りをもって弾劾する。

安全問題にも「問答無用」

「六一・一一ダイ改」交渉において当局は、訓練計画などについて「交渉事案」ではないと一方的にきめつけたうえに、業務命令を乱発し、現車・線見・机上訓練の事前作業を強行実施してきたのだ。団交を拒否するばかりか、運転保安のうえで最も重要な〝異常時〟における事項についても「訓練の必要なし」と突っぱねた。

安全性を「最大の使命」とすべき国鉄当局は、いま、「十一月ダイ改」に大要員合理化を行い、「分割・民営化」を強行するために、多くの人命をあずかる動力車乗務員が真に安全性を求める声すら踏みつぶそうとしているのだ。

「信号なんか判らなくてもいいから乗れ」

——いま、現場で進行している事態——

こんなメチャクチャな話があるだろうか！

九月十九日、総武緩行線の錦糸町～幕張間を担当していない千葉運転区の乗務員に担当させるという。千葉運転区は、快速線担当区であり、もちろん、緩行線の錦糸町～津田沼間には全く乗り入れをしていない。

当該乗務員は当然にも「担当したことがないので不安である」と申し出たところ、現場当局は「線路指導者をつける。何か起った時は、責任は指導者がもつから乗れ」と乗務を強要したのだ。運転保安を無視した計画に対し支部は「線見を行うべきだ」と申し入れたところ、何んと当局は「快速線を並行して走っている区間だからいいんだ」「自信がなければ乗らなくてもいい、他の者を乗せる」と恫喝しながら「今後もこのやり方でやる」と運転保安を自ら投げすててきた。

並行して走っている線区だから信号も地形もわからなくても乗れというのだから、これほど恐しいことはない。

必ず 労働者に責任転嫁する当局

——「非協力・安全確認行動」を貫徹しよう——

ダイ改ごとに、労働条件の劣悪化、激しい労働強化が襲いかかり、さらに、言切り恫喝の攻撃の下での不安・動揺・処分で常に脅やかされる状態に身をさらしながらも運転部門の労働者は頑張ってきた。

文字通り安全性は労働者によってようやく保たれているといっても過言でない。

運転保安が無視・破壊された先には大事故しかない。その責任を労働者に必ず転嫁するのが資本の常とう手段である。

こんな理不尽なことを許してはならない。怒りをもって非協力・安全確認行動ー強力減産に断固として起とう。

(198 読売)

「玉突き配転は違法」 新幹線運転士ら13人訴え

広域異動で「人材活用センター」へ〝玉突き配転〟された国労所属の新幹線ベテラン運転士ら十三人が七日、「配転は国労つぶしを狙った違法なもので、〝若葉マーク（初心者）運転士〟が増えて新幹線の安全性を脅かすことになる」として国鉄当局を相手取り、配転命令の無効を求める仮処分を東京地裁に申請した。

申請したのは、新幹線運転歴十七年の加藤宏司さん（四三）らベテラン運転士、検修係と国労東京地本（同新幹線支部）。

その申請によると、国鉄当局はさる五月からの広域異動で、北海道などに勤務していた動労所属の在来線運転士、検修係百人余を新幹線総局東京第一、第二運転所に転勤させ、その結果、加藤さんら国労所属の五十人が人材活用センターに配転させられた。このため、来月一日のダイヤ改正の時点から東京第二運転所の新幹線運転士のうち約二割が四か月の速成研修を受けただけの〝若葉マーク運転士〟となり、新幹線が二百三十キロにスピードアップされる折、作業ミスの多発が心配されるという。

ベテラン運転士（国労）を⇒「人活でペンキ塗り」へ
広域配転者（動労）を⇒「速成研修で本線乗務」へ

(198 毎日)

人活センター配転で仮処分申請 国労組合員

国鉄の進める広域配転の影響を受けて、「人材活用センター」に余剰人員として配置換えとなった国労所属の新幹線の運転士と車両整備員らが七日、「配置換えは国労組合員のみを対象にした不当労働行為」と、国鉄や所属長を相手に配置換えの業務命令の効力停止などを求める仮処分を東京地裁に申請した。

申請したのは、新幹線総局東京第一運転所の車両検査係、遠藤充さん（三七）や同第二運転所の運転士、加藤宏司さん（四三）ら十三人と国労東京地本、同新幹線支部。

申請によると、国鉄が今年五月から進めている広域配転で、北海道などの在来線の検査修理要員や運転士約二百人が東京第一、第二運転所に配置された。これに伴う玉突き異動で余剰人員となった遠藤さんら七人は九月に、人材活用センターに配置換えされ、資料づくりやペンキ塗りなどの作業を命じられている、という。

遠藤さん側は①国鉄は広域配転で意図的に余剰人員を生み出した②人材活用センターへの配転を受けたのは国労組合員のみで不当労働行為③いずれもベテランで、広域配転の結果、経験の浅い検査係や運転士が増え、安全運行に支障をきたす④実際にボルトの締め忘れなど不慣れによる作業ミスが続出している——と主張。遠藤さんら七人は業務命令の効力停止、また他の六人は、将来同センターへ配転されることを予想して、事前に配転命令の禁止を求めている。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！